

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足立 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

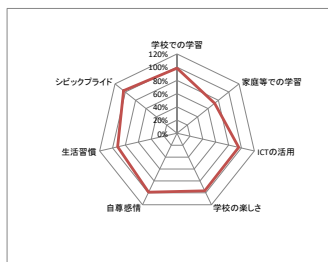
- 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率との比較では「知識・技能」及び「思考・判断・表現力」ともに下回っている。特に「思考・判断・表現力」においては「話すこと・聞くこと」そして「書くこと」に課題が見られた。「知識・技能」では、全国平均正答率から下回っているものの大きな差は見られなかった。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「言葉の特徴や使い方に関する事項」	
	努力が必要な問題	「話すこと・聞くこと」「書くこと」	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率との比較では「知識・技能」及び「思考・判断・表現力」ともに下回っている。特に「数と式」「図形」「関数」の3つの項目に課題が見られた。これは「数と式」の基本的な計算能力の結果が他の2つの項目の結果に大きく関連していると考えられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「データの活用」	
	努力が必要な問題	「数と式」「図形」「関数」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「人の役に立つ人間になりたいか」「先生はあなたのよいところを認めているか」との問いに対して肯定的に回答している生徒が多い。
・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性がある。今後も「できた」と達成感を感じられるように授業改善を進めていきたい。
・家庭等での学習習慣の定着に課題が見られた。特に、学校が休みの日の学習時間では、全国平均との差が目立った。また、「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合も低かった。今後は、GIGA端末を通じた学習コンテンツを充実させ、日々の授業や補充学習はもちろん家庭学習にも活かせるように段階的に取り組んでいきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

・国語では、「書くこと」の能力向上に向け、文章を書く活動を定期的実施する。読み手に自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を文章の中に記述したり、読み手からの助言を踏まえ、良い点や改善点を明確にする。また、文脈に即して漢字を正しく書けるように言葉の正しい意味や表現を朝自習や足立タイムの中で身につける。
・数学では、「正の数、負の数」「文字式」「方程式」等の基本的な計算能力の向上が必須である。朝自習や足立タイムを活用して、計算練習と確認テストを定期的実施する。また、ドリルパークの活用を通して自分で気軽に計算練習に取り組めるような体制を整える。

- 家庭生活習慣等に関する取組

各教科、学年で適量の課題を出し、家庭での学習習慣の定着を目指す。GIGA端末の有用な活用のために、課題の中に調べもの学習等も設定する。また、定期考査前には、学習計画票を作成し計画通り家庭学習の推進をこれまで通り継続して実施する。